

も・み・じ

113



発行：放送大学福島学習センター
機関誌

〒963-8025

郡山市桑野1丁目22-21

TEL 024-921-7471

いわきサテライトスペース

TEL 0246-22-7318

<https://www.ouj.ac.jp>

—もみじの由来—

福島学習センターの建物は、もみじ館と呼ばれ、郡山女子大学発祥の地である。青葉の頃、紅葉の時期それぞれに美しい色どりが心をなぐさめる。当センター機関誌の名称としてまことにふさわしい。

重要!

お知らせ

- ◆面接授業や学習センター等の重要な情報については、システムWAKABA及び福島学習センターウェブサイトに掲載いたしますので、必ず週に1度はチェックするようにしてください。

システムWAKABA <https://www.wakaba.ouj.ac.jp/portal/>

福島学習センターウェブサイト <https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

- ◆2025年10月より、学習センターでお取り扱いしている各種手続きにおける支払いはキャッシュレス決済になっております。

キャッシュレスの方法は、メール決済・窓口決済の2種類になっております。

詳しくは、『学生生活の栞』及び下記URLにて、ご確認ください。

<https://www.ouj.ac.jp/news/2025/information/9-2.html>

- ◆学習センター閉所日について

令和8年4月より、閉所日2日制を実施いたします。詳しくは『利用の手引き』の日程表及び福島学習センターウェブサイトをご確認ください。

◆システムWAKABA等の不正利用を防ぐためパスワード変更をお願いします。

在学生の方：初期パスワードのままですと、システムにログインできなくなります。

ログインできない方は学生サポートセンター(電話：043-276-5111)・教務課教務係(e-mail：kyomuka@ouj.ac.jp)・学習センターにご連絡ください。

新入生の方：速やかに、初期パスワードを変更してください(システムWAKABAログイン後、トップ画面の「パスワード変更」で変更できます)。

◆機関誌『もみじ』及び『利用の手引き』の配布方法について

配布方法については、福島学習センターウェブサイト内の「機関誌紹介」及び「各種お手続き」(下記URL)に配布方法が掲載されています。配布希望者の方はウェブサイト参照の上、お手続きをしてください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/about/magazine.html>

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/procedure/>



新しい学びの世界へ、ともに

福島学習センター所長 塩谷弘康

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。福島学習センターの教職員一同、心より歓迎申し上げます。

かくいう私も、福島大学行政政策学類での33年間の教員生活を終えて、皆さんと同じくこの4月から放送大学に「入学」しました。面接授業を2回担当したことはありますが、通学制大学とは性格が異なる放送大学は一体どんなところなのだろうか、皆さんの充実した学びをサポートしていくにはどうすればよいだろうかと、新天地での学びにワクワク・ドキドキしています。

福島大学の学類(学部)や大学院でも、自治体職員、地方議会議員、保健師・看護師、主婦・主夫など多様な社会人が学んでいて、彼ら彼女らの熱量に圧倒され、多くの刺激を受けることができました。ただ、ほとんどの学生は高校を卒業したばかりの18歳の若者で、社会に出るまでの4年間を過ごす「通過点」として大学生活を送っています。私の学生時代は「モラトリアム(猶予)期間」と呼ばれていましたが、二十歳前後の4年間を勉学だけではなく、サークル活動やアルバイトなど多様な経験を積む自分のための時間として使えることは、長い人生の基盤づくりとして大きな意味をもっています。

しかし、本当の意味での学びは、学校時代で終わるわけではありません。『LIFE SHIFT(ライフ・シフト)—100年時代の人生戦略』(リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット著、池村千秋訳/東洋経済新報社、2016)によれば、これまでの人生は、「教育(0~20歳前後)」「仕事(20~60歳前後)」「引退(60~80歳前後)」という3つのステージで構成されていましたが、長寿命化が進んだ「人生100年時代」では、生涯に複数のステージの平行・移行を重ねるマルチステージに転換していくことになります。

そして、ライフステージの各段階で活躍し続けるためには、「前に踏み出す力(Action)」「考え抜く力(Thinking)」「チームで働く力(Teamwork)」の3つの能力が必要になるとされています(2018経済産業省「社会人基礎力」)。

放送大学("The Open University of Japan")では、時間的・空間的な制約がなく、「いつでも、どこでも、自由な学び方」ができます。放送授業・オンライン授業に、学びの醍醐味であるライブWeb授業・面接授業を組み合わせることによって、皆さんが求める、いまの時代に相応しい学びを手に入れることができるのです。

新しい学びの世界にともに踏み出せることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします。

多様な放送大学生との出会いに刺激されて ～退任のご挨拶～

福島学習センター前所長 中 田 スウラ



放送大学福島学習センターでたくさんの社会人学生の皆さんと出会い、その社会経験に裏打ちされた学習意欲の旺盛さに、日々、刺激され続けたこの3年間、これは貴重な宝物です。そして、何とか所長職の任を全うすることができほっとしていますが、それは、センターに通われる学生の皆さん、面接授業やゼミで熱心に学生指導を進めてくださった客員教員や講師の皆さん、くわえて母体校と職員の皆さんから賜ったご支援によるものであることに違いありません。改めて深く感謝申し上げます。

さて、退任するにあたるこの2026年の3月11日は、東日本大震災の勃発から15年が経過する日となります。同大震災は、巨大地震、巨大津波、原子力発電所事故が同時・連続的に発生し、互いの被害を増幅させた複合災害であるという点に最大の特徴があります。福島県民は、その後の地域復興とそれを支える人材育成をめぐる多くの課題に直面しながらこの15年を歩み続け今日を迎えています。人類が初めて経験する未曾有の複合災害といかに対峙するののかと言った深刻な課題に、これまでの教育・学習で得た知識・情報・技術等だけで立ち向かうことは難しく、新たな対応力を遅々とした歩みであっても創出する必要性が痛感されます。こうした問題意識は、福島学習センター・いわきサテライトスペースでの面接授業や客員教員ゼミの内容にも反映され、この間、大震災・原発事故関連の学習に多くの受講生が集まりました。参加する学生の皆さんは真剣にこの課題から何を学びこれからの持続可能な社会創造にどのように活かしていけばいいのかを必死に模索・探究されていました。例えば、所長ゼミとも言える「所長カフェ」では参加者からの自由で主体的な学習発表が意欲的に展開され、大震災を経て出現している日常的な生活課題について多様な視点で議論がなされました。これまでの日本のエネルギー政策、歴史や文化・芸術、科学やジェンダー問題等々について、大震災の経験とそこからの痛みをもって問い直しが進められました。さらには、そうした問い直しから、これからの社会創造の示唆を得ようとする沢山の学習報告がカフェでは行われました。高齢世代を含めた参加者の皆さんは、今後の10年・50年・100年後の社会を見つめて、真剣で自由闊達な議論と学習を展開されました。それを目の当たりにすることは私をとて勇気づけました。変動性が高く不確実で複雑な、あいまいだと言われる今日のVUCA時代*ですが、次世代にきちんと社会創造のバトンを渡そうと真摯に学び合い知恵を紡ぎ出そうとする学習者は確かに存在しています。2020年頃からのコロナ感染の拡大の中で、放送授業や双方向のやり取りが可能となるWeb授業等の便利さや有効性が着目されますが、対面による議論から互いの視点に付随する違いや共通性を学び、一緒に新しい考え方や価値観を培っていく学習の面白さや醍醐味もまた貴重です。自由で闊達な、そして対等なディスカッションの中で育まれていく信頼を基盤に展開される対話的な学びの輪、それが放送大学の教育・学習機会からますます広がることを期待しています。目下、放送大学は、教育・学習環境の改善を進めるための改革・改善を推進していますが、これからも皆さんの生涯学習推進の機会として積極的にご活用ください。

また、皆さんとお会いできる機会があることを楽しみにしています。皆さん、本当にありがとうございました。

*VUCA時代…Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)を特徴とする、急速に変化する現代社会のこと。

惜別の辞

郡山女子大学短期大学部教授
會田 容 弘



この度、5年間の放送大学福島学習センター客員教授を退任させていただくことになりました。一言、ご挨拶をさせていただきます。

2021年4月、ゼミを担当するということになり、前任の野沢教授からは何の申し送り事項もないまま、勤務校の道路の向かいにある放送大学福島学習センターにスタスタと歩いて行った記憶があります。福島学習センター

千葉所長は「福島大学菊地教授(私の友人)とは飲み仲間である」と自己紹介されるような気さくな方でした。

コロナ禍のさなか舞い込んだような私でありました。ゼミということで、発掘実習に皆さんをお誘いしようと考えました。申し遅れましたが、私の専門は考古学であります。土の中から過去を掘り出す喜びを共有したい。会津若松市笹山原遺跡を毎年継続して発掘調査を行っていましたので、その現場にお誘いしました。しかし、時はコロナ禍、集団で集まる会話や食事すら禁じられました。9月にやっとできた発掘は、郡山市から遠く、足もなく、計画倒れ。受講生の皆さん、申し訳ありませんでした。出土遺物の水洗いを経験していただけたのが、せめてもの私の償いでした。

ゼミで話題提供するつもりで始めた「人類進化」の話が2年間にも及んでしまいました。笹山原遺跡は約3万5千年前の遺跡で、福島県では最古の人類の痕跡です。その重要性を説明するために600万年前のアフリカから人類の進化をお話することになりました。熱心に聞いてくださるものですから、おもわず力が入ってしまい、最新の情報をかき集めました。久しぶりに勉強するのが面白く、知ったばかりの知識をお披露目させてもらいました。でも、ゼミなのだから、学生の皆さんにもお話してもらわなければと思い、宮城県里浜貝塚の話、そして博物館の話に広がり、あっという間に5年が経っていました。やっと学生のみなさんと意見交換ができるようになったのに、私がお先に卒業と相成りました。申し訳ございません。

中田スウラ所長ほかセンターの方々には大変お世話になりました。感謝・感謝の涙です。5年間、楽しかったなあ。

言葉を超える言葉を探して

郡山女子大学短期大学部教授
何 燕 生



私の研究テーマは、禅の思想を手がかりに、「言葉ではうまく説明できないもの」を人はどのように伝えようとしてきたのかを考えることです。禅には「不立文字」「教外別伝」という言葉があり、しばしば「言葉を超えた教え」として紹介されます。しかし実際の禅の世界を見ると、公案や語録、法語など、驚くほど多くの言葉が残されています。禅は言葉を否定する思想ではなく、言葉

を使いながら、その限界をあらわにしようとする思想だと私は考えています。

私はまず、中国で生まれた禅が、どのような言葉で語られ、書き残され、読み継がれてきたのかを研究してきました。そこでは、同じ言葉であっても、時代や地域、読む人によって意味が変わっていく様子が見えてきます。禅の言葉は、決まった答えを与えるものではなく、読む人自身に考えさせる「開かれた言葉」なのです。

こうした関心は、日本の禅僧・道元の思想へと広がっていきました。道元は「只管打坐」を唱えながら、他方、語りの有用性を深く信じていた思想家でした。彼は、真理は言葉の外にあるのではなく、言葉が使われるその瞬間に現れると考えました。山や川の音や姿そのものが教えであるという道元の発想は、私たちが世界をどう感じ、どう語るのかを見つめ直す視点を与えてくれます。

また、翻訳という行為にも私は強い関心を持っています。翻訳とは、意味をそのまま移す作業ではなく、どうしても訳しきれない部分と向き合う営みでもあります。禅の言葉を他の言語に移そうとすると、「語れないもの」がどこにあるのかが、かえって浮かび上がってくるのです。

現在はAIの時代です。AIは文章を書き、翻訳する時代になった今、言葉はますます便利になりました。しかし、それでも言葉では言い尽くせないものは残ります。禅の思想を通して言葉を見つめ直す私の研究は、情報があふれる現代社会において、立ち止まって考えるための静かな視点を提供したいと考えています。

令和8年度 第1学期 ゼミのお知らせ

—ゼミの受講について—

ゼミは、客員教員がテーマに沿って授業を行います。ただし、面接授業とは違い、一方的に授業をすすめるものではありません。学生さんとお話をしながら授業を行っていきます。1回ごとに行われていますので、途中からでも参加できます。ゼミを受講する場合の申し込み・授業料は不要です。正規の単位にはなりません。積極的な参加をお待ちしております。
※都合により、日程が変更になる場合があります。その都度、館内に掲示してお知らせいたします。なお、日程の確認は電話での問い合わせも可能です。

テーマ 「心理学の世界」



五十嵐 敦 先生

会場 福島学習センター

講義概要

またまた日本心理学会刊行「心理学ワールド」の記事を、参加された皆さんと読み解きたいと思います。各回取り上げる記事は、日本心理学会のホームページからダウンロードできます。事前に目を通しておいていただくと、皆さんとの対話もより一層楽しめるかと思えます。時には脱線しながら、担当者も一緒に学びたいと思います。興味のあるテーマの回だけでも気楽にご参加ください。

- 1 4月5日(日) 10:00~11:30 行動変容の臨床健康心理学-治療と予防の行動変容
心理学ワールド106
- 2 4月26日(日) 10:00~11:30 悲嘆研究の最新動向—理論と実践
心理学ワールド110
- 3 5月16日(土) 15:00~16:30 喪失後、人はそれを乗り越え成長するのか？
心理学ワールド110
- 4 5月23日(土) 13:00~14:30 「**を控えてください」が効果的でない理由
心理学ワールド106
- 5 6月6日(土) 13:00~14:30 複数のウェルネス、揺れ動く規範—慢性疾患とともに「よく生きていく」ことの多義性、相反性、反語性
心理学ワールド103
- 6 6月27日(土) 15:00~16:30 防災とナッジとその限界
心理学ワールド102
- 7 6月28日(日) 13:00~14:30 アート鑑賞によって触発されるコミュニケーション
心理学ワールド109

テーマ 「物流・ロジスティクス入門」



石川 友保 先生

会場 福島学習センター

講義概要

近年、「物流」「ロジスティクス」「サプライチェーン」という言葉を新聞やテレビで見かけるようになりました。それぞれ、私たちの生活を維持するために、とても重要です。本ゼミでは、物流・ロジスティクスの基礎的な考え方や身近な例を学びます。

- 1 4月12日(日) 10:00~11:30 ロジスティクスと生活(私たちの生活を支えるロジスティクスについて、生活の様々な場面での役割を学びます)
- 2 4月19日(日) 10:00~11:30 ロジスティクスの定義(ロジスティクスの基本的な内容や概念を学びます)
- 3 5月10日(日) 10:00~11:30 ロジスティクスと流通(ロジスティクスのうち、流通を構成する商取引流通(商流)と物的流通(物流)を学びます)
- 4 5月24日(日) 10:00~11:30 ロジスティクスの物流機能(ロジスティクスを構成する6つの物流機能を学びます)
- 5 6月7日(日) 10:00~11:30 ロジスティクスと物流事業(貨物自動車運送業や倉庫業などの物流事業の実態を学びます)
- 6 6月14日(日) 10:00~11:30 ロジスティクスとマーケティング(マーケティングとロジスティクスの関わり、顧客サービスを学びます)
- 7 6月21日(日) 10:00~11:30 まとめ

テーマ 「道元の『弁道話』を読む」



何 燕生 先生

会場

福島学習センター

講義概要

中世の禅僧・道元の『弁道話』を読みます。『弁道話』は漢文から和文へと転換する起点となった道元の最初の作品であり、道元が中国の禅の言葉をどのように日本語化したのか、という問題を考えるために格好の材料です。読み方としては、①『弁道話』に出てくる専門用語の意味を調べること、②原文を現代日本語に翻訳すること。これらの作業を通じて、古典の読み方、禅の考え方を学ぶことを目的とします。

資料を配布し、道元はどんな人物かを学ぶ。参考書として、岩波書店『思想』(No.1205、2024年9月号)「道元思想」を用います。

- 1 4月5日(日) 13:00~14:30
- 2 4月11日(土) 13:00~14:30
- 3 5月9日(土) 10:00~11:30
- 4 5月9日(土) 11:40~13:10
- 5 5月16日(土) 13:00~14:30
- 6 6月7日(日) 13:00~14:30
- 7 6月20日(土) 13:00~14:30

テキストを配布し、第一節から読む。
端座坐禅とはなにか

第二節を読む。
発心求法とはなにか

第三節を読む。
仏家の正法とはなにか

第四節を読む。
五家の宗風とはなにか

第五節を読む。
宗門の正伝とはなにか

第六節を読む—まとめて代えて

テーマ 「イギリス文学を通して社会と文化と人びとを読む(その7)」



高田 英和 先生

会場

福島学習センター

講義概要

令和8年度の第1学期も、前年度に引き続き、近現代のイギリス文学を読みます。文学テキストを通して、時代背景および社会／文化的な事象(逃避、自由、個性など)を同時に深めていきます。また、映像等を用いて文学作品の受容について、さらには、可能であれば文学の成立・制度化とその意義に関しても、考察します。授業では、各自、予習してきたものをもとに、質疑応答・ディスカッション等の活動を、主体的に行なっていきます。

はじめに
——授業概要の説明、
作品／作者とその時代について

- 1 4月18日(土) 10:00~11:30
- 2 4月25日(土) 10:00~11:30
- 3 5月23日(土) 10:00~11:30
- 4 5月30日(土) 10:00~11:30
- 5 6月13日(土) 10:00~11:30
- 6 6月20日(土) 10:00~11:30
- 7 6月27日(土) 10:00~11:30

英文学と社会①
——現実と虚構(空想)

英文学と社会②
——人間と動物

イギリス文学と文化①
——友愛と憎悪

イギリス文学と文化②
——子ども(少女)と大人

人びとの／と English Literature
——国民と国家

おわりに
——さまざまな国、社会／文化
における受容について

—ゼミの受講について—

ゼミは、客員教員がテーマに沿って授業を行います。

ただし、面接授業とは違い、一方的に授業をすすめるものではありません。学生さんと対話をしながら授業を行っていきます。

1回ごとに行われていますので、途中からでも参加できます。ゼミを受講する場合の申し込み・授業料は不要です。正規の単位にはなりません。積極的な参加をお待ちしております。

※都合により、日程が変更になる場合があります。その都度、館内に掲示しお知らせいたします。なお、日程の確認は電話での問い合わせも可能です。

テーマ「震災15年目、現段階を考える」



山田 紀浩 先生

会場

いわきサテライトスペース

講義概要

今年は東日本大震災から15年目の節目です。いわき地域での復興事業は、様々な方々ならびに諸機関からの尽力と共に励み、現段階に至っています。ところで震災後直ぐの2012年に「ポスト3・11変わる学問」という書籍が朝日新聞出版から発刊され、多分野の研究者からの警鐘や磐城高校生たちの記述もあります。大震災の混乱期に発行された本を読み返し、現段階を一緒に考えたいと思います。(進行状況により小テーマが変わることもあります)

- 1 4月11日(土) いわき地域での震災復興15年での経験で学んだ事について
10:00~11:30
- 2 4月25日(土) 学問の再生のために
10:00~11:30
- 3 5月9日(土) 自らの手で自らの社会を
10:00~11:30 (福島の高校生を訪ねて)
- 4 5月23日(土) 震災を転機として
10:00~11:30 (災害の伝承)
- 5 6月6日(土) 震災を転機として
10:00~11:30 (人間とは何か)
- 6 6月13日(土) 地球時代を生きる
10:00~11:30
- 7 6月20日(土) 震災15年目、現段階について
10:00~11:30 考えてみましょう

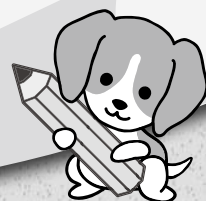
卒研ガイダンスのご案内

卒業研究や修士論文に挑戦しようと思っている方で、テーマの設定の仕方や研究の進め方が分からず悩んでいる方はいませんか。ガイダンスを下記の日程で行います。全体ガイダンスの後に個別の相談にも応じますので、関心のある方はぜひご出席ください。

6月20日(土) 13:30~15:30 於福島学習センター

※なお、所長カフェについては、後期から開講する予定です。

M E M O



学生サークル紹介



登山サークル



登山サークルでは、登山を通じ、体力、気力を養うとともに仲間意識の高揚と親睦を図ることを目的として活動を行っています。また、気候や環境を肌に触れ、動植物の観察などを通じ自然の理解を深めます。名湯を探し入浴するのも楽しみの一つです。

山行は、ほぼ月1回、県内各地の山を中心に、1～2回は宿泊し日本百名山にも登ります。令和7年は、2月裏磐梯五色沼遊歩道、3月雄国山、4月前山・惣山(金山町)、5月4日～5日燧ヶ岳(松枝岐村)、5月小野岳(下郷町)、6月白笹山・南月山(栃木県)、7月20日～21日平ヶ岳(プリンスコース)、8月蝶ヶ岳・常念岳(長野県)、9月本名御神楽(金山町)、10月日光白根山(栃木県)、11月安達太良。

その中でも燧ヶ岳山頂から見える尾瀬ヶ原、蝶ヶ岳から眺めた檜・穂高の山並み、平ヶ岳山頂部の池塘には印象的でした。今年度も計画中です。個人々の希望と体力にあった山を選んで登山を楽しめればと思っています。

入会希望 (会長) 高橋八重子 TEL/FAX024-944-8342
問い合わせ先 (幹事) 斎藤 芳久 TEL/FAX024-546-8676 携帯080-1809-0046 e-mail: saito-y@chive.ocn.ne.jp

会津学知会

会津学知会は、2006年5月に設立した認定学生サークルです。毎月一回、会津稽古堂において定例会(学習会)を開き、皆で関心事や疑問を質問し合い、積極的に意見を交流する楽しい会と

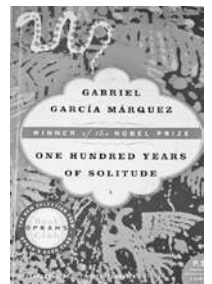
なっています。昨年6月には、会津学知会の活動が「BS放送・放送大学キャンパスガイド」で紹介されました。また、9月に現地研修として「3.11大震災の復興視察」、10月に「会津歴史散策」、11月には地域教育コーディネーターの講師による会津の歴史をテーマにした「ミニ講演会」を実施しています。

年間計画											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定例会		休会		現地視察	歴史散策	ミニ講演会	定例会	休会	定例会		
会津稽古堂		浜通り現地		市内現地		会津稽古堂					
年間会費 1,000円											

内容は、会津学知会のホームページで公開しております。是非、ご参加ください。お待ちしております。

<http://aizugakutikai.yaekumo.com>

Book Club



「Book Club」は読んで楽しくなる英米文学作品の原書を輪読している会です。会は、福島学習センターの1学期(4月～7月)及び2学期(10月～12月)に開催され、英語ゼミの授業日に合わせ月2～3回、一回90分を目安に実施しています。本年度も「世界傑作文学100」選のガブリエル・マルケス著『『ONE HUNDRED YEARS OF SOLITUDE』百年の孤独』を輪読します。この本は、カリブ海沿岸地方のマコンドという村の創設から繁栄と没落の百年を魅惑的に綴った作品です。主人公のウルスラは、しっかりした気性の包容力のある女性で、行く手を阻む障害を全て乗り越えるという闘う姿が描かれています。訳本も出版され、その訳者である提直氏は、このガルシアの小説を「時間と空間を猛スピードでアクロバティックに移動するジェットコースターに乗り、次々にやってくる膨大な情報量の波に打たれ、呑み込まれ、くぐり抜ける恐怖と快感」を感じると評しています。原書の持つ魅力を愉しんでいきたい小説です。詳細は下記に問い合わせてください。

会長 清田直樹 024-952-2169 事務局 根本芳則 080-1835-3863